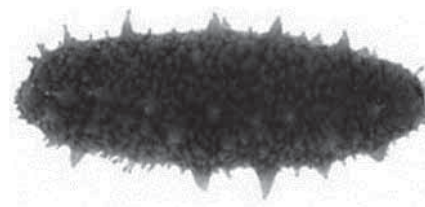


マナマコ *Apostichopus armata*

地方名：あおなまこ、くろなまこ



生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：6 歳、約 300g
- ③産卵期：5 月～7 月（水温 13～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深 40m 前後までの砂礫、転石、岩盤域
- ⑤生態：ふ化した幼生は 2 週間～3 週間浮遊生活し、稚ナマコに変態・着底する。2 歳以上は 1 年で約 60 g 成長する。浮遊幼生期間は植物プランクトンを餌とし、着底後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の植物性有機物などを餌とする。夏の高水温期には、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と呼ばれる休眠状態になる。マナマコは色によって区別されており、陸奥湾で漁獲されるものはほとんどがアオナマコまたはクロナマコである。様々な研究からアオナマコとクロナマコは同一であるが、アカナマコはやや異なると考えられている。ただし、別種とするかは研究者間でも意見が分かれている。別種とする場合、学名はアオナマコとクロナマコが *Apostichopus armata*、アカナマコが *Apostichopus japonicus* となる。

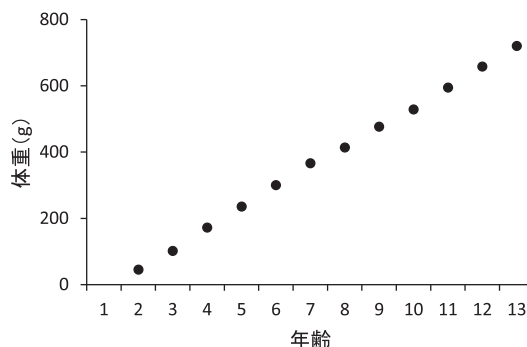


図 青森県におけるマナマコの成長(陸奥湾)

出典：遊佐(2020)R 元年度青産技セ水研事業概要年報, 75-76.

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

1975 年以降 400 トン～900 トンで推移していた漁獲量は、1988 年の 293 トンの最低以降急増し、2007 年は 1,653 トンの最高を記録した。2014 年以降は減少傾向に転じ、2023 年の漁獲量は前年から微減して 639 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

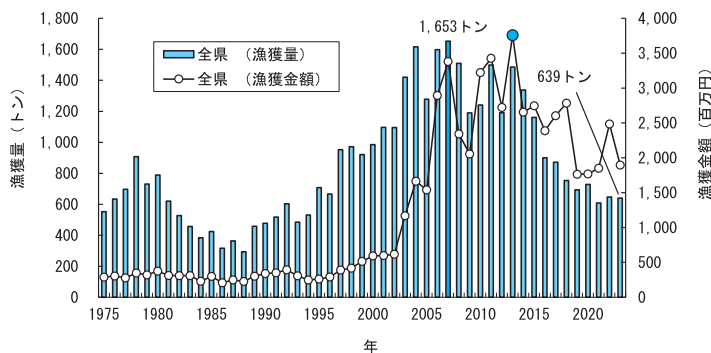


図 青森県におけるナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（むつ市・横浜町漁協 1998 年 3 月）
 - ・操業区域の制限、稚ナマコの保護などを定めた。
- 青森県ナマコ資源管理指針（2010 年 3 月）
 - ・小型個体の再放流や禁漁、休漁期間の設定などを定めた。

☆青森県漁業調整規則により、漁具の制限(なまこけた網：網の目合 6cm 以上)や 5 月 1 日～9 月 30 日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

